

第17号
平成27年
秋

地域医療支援センターだより

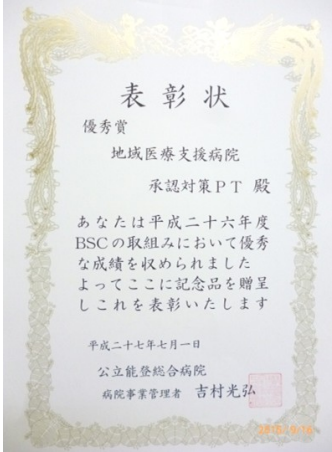
このたび、当センターの長である上木修が9月より院長に就任いたしました。今後も一層のご指導ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

院長就任式

平成27年9月1日(火)



BSC発表大会
優秀賞!



毎年当院では、各部門ごとに年度の目標と計画を発表しあう場として、BSC（バランススコアカード）発表大会を開催しています。地域医療支援センターは、昨年の大会で地域医療支援病院の承認を目指す取組みについて発表しました。その結果、数あるユニットの中から優秀賞（全体の第2位）に選ばれ、めでたく表彰を受けることができました(^^)

開放病床のご紹介

当院は、地域の登録医（かかりつけ医）と当院の主治医が共同で診療することができる「開放病床」を32床設けています。入院中の治療において情報共有することにより、退院後も継続した医療を行うことができます。地域医療連携係が窓口となり、開放病床入院の申し込みやご案内を行っています。今後も、患者さんと地域の先生方の治療に貢献できるよう、円滑な連携に努めてまいります。

平成26年度開放病床利用状況

病床利用率	54.4%
1日平均入院患者数	17.4人
開放病床利用登録医数	49人

故・橋本正明先生を偲んで

院長であり私たち地域医療支援センターのセンター長であった橋本先生。今でも橋本先生の声がふいに聞こえてきそうです。先生が日頃私たちに話してくださったお言葉を、「はー先生語録」として記してみました。



はー先生語録その1

診療報酬改正や制度改正など様々な動きがあると、日々の会話の中にそれらの情報を取り込んでよく話してくださいました。はー先生独自の解釈で私たちに話して下さるので、（どこか文学的だったり哲学的だったり、抽象的…）私たちが「???'という顔をしていると、「というわけでな、いろんな風が吹くから。ひとつずつしっかり確認していこう!」とまとめてくださるのでした。

いろいろな風が吹く



あれやこれやで…

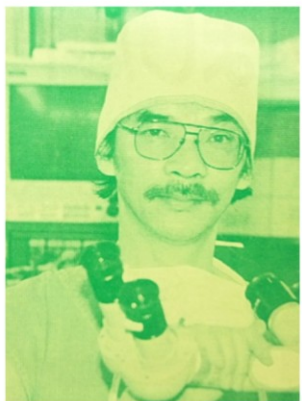
はー先生語録その2

先生に困ったことを相談すると、いつも時間を取って話を聞いてくださいました。解決策と一緒に考える姿勢は示してくれるのですが、問題への対処については、「あれやこれやで、そのうちなんとか見えてくるから。な、そういうこっちゃ。」で締めくくられるのでした。

はー先生語録その3

私たちが興奮して話すと、「お、お、わかったぞ。」と聞いたあと、「まあまあ待ってれ。そのうち山は動く。」といつもなだめてくださいました。「山が動く」とは???

山が動く



はー先生語録その4

周囲が非協力的だと感じるとき、あるいは制度が思いがけない方向に改定されたとき、「お、忍法掌返しやな！」と真顔でおっしゃるはー先生。どんな時も誰かを非難するような言葉は使わないはー先生らしいお言葉でした。

忍法掌返し



はー先生語録その5

いつも納得のいかない事柄について「先生、聞いてください！」と、センター長である、はー先生に助けを求める私たち。「お、お、わかったぞ。」と聞いてくださったあと、「…ところで、その部署の長は誰や？」と言われ、「・・・」。一体どんな立場で私たちの訴えを聞いてくださっていたのでしょうか？

おう、それは誰や？



はー先生は私たちの話をいつも穏やかに「お、お」と聞いてくださいました。前向きな言葉しかおっしゃらない「はー先生」。楽しい語録は数知れず。私たち地域医療支援センタースタッフは、はー先生のポジティブ精神を胸にこれからも一丸となって頑張っていきます！

「連携の輪とケア、ここをつないでいくために」



副看護師長
老人看護専門看護師
専任退院調整看護師 関 利志子

当院には、専従、専任を含め3名の退院調整看護師がいます。退院調整看護師って何をする人？と思われるでしょうが、具体的には・・・「患者様への意思決定支援と自立に向けた支援」を促していくことです。依頼のあったケースによってですが、まずは患者様がどうしたいか、ご家族がどう思っているかという意思決定支援を行うために、面接をします。そこから、患者家族の意向にそって、関わる各職種から今の状態や状況から問題を洗い出し、その問題に対し、「強化しなくてはならないこと、支援が必要なこと」に分け、セルフケアを強化していくこと、そして社会資源を使いながら、その人に生活を整えていくことを組み立てていきます。すなわち、患者家族の意思を確認した上で、問題を洗い出し、そして整理し、関わる職種に意図的に関わり実行、強化してもらうことです。それには、多職種と協力しながら、日々のミニカンファレンスなどでディスカッションを重ね、合意形成を得ながら、互いの専門性を活用していくこと、さらに全体をみわたしながら、問題の整理と各職種間の連携をつないでいくことが求められます。

私の場合、『老人看護専門看護師』という資格を持ち、高齢者に関する直接的な援助、相談、調整、倫理調整、教育も行っています。特に、高齢者の意思決定支援を大切に关わることを心がけています。また、フィジカルアセスメントをしっかりと行うことで患者の問題を見極め、支援につなげていることや、高齢者の関わり方や見方などに関しても、退院支援に関わるスタッフ教育に役立てることができています。

教育では、先日、石川県看護大学大学院看護学研究臨床准教授の称号を頂きました。これに甘んじることなく、能登地区の在宅ケアの充実につながるよう頑張りたいと思います。

地域医療支援センターのモットーは”つなぐ・つながる・つなげる“です。
院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていきたいと思います。
皆様 **仲良く仲良く！** よろしくお願ひします！